

アラ映画
交流プロジェクト

キネマ



広場

上映作品



薄っぺらいメテオアキラテラシーはもういらぬ
「ヤクザと憲法」監督&プロデューサーが描く
テレビの自画像
東海テレビドキュメンタリー劇場第12弾

これは、
裸のラヴレター

www.sayonara-tv.jp

©東海テレビ放送

12
/
18
土

①10:00~
②13:30~

12
/
19
日

土方宏史監督(各務原市出身)
中根芳樹カメラマン(可児市出身)
トークイベント付上映

13:30~
[全席指定]
一般:900円
18歳以下:450円

[チケット発売日]
10月10日(日)9:00~
※電話予約は翌11日(月)9:00~

会場 | 可児市文化創造センター ala 映像シアター

主催: (公財)可児市文化芸術振興財団 協力: アラ映画祭実行委員会

アラの取り組み

本上映は新型コロナウイルス感染症対策を行い、開催します。

- ・館内では、マスクの着用をお願いします。
- ・受付時に検温を行います。発熱があった場合、入場をお断りする場合がございます。
- ・当日の混雑防止のため、チケットの事前発券にご協力ください。
- ・厚生労働省による接触確認アプリ(COCA)のご利用をお願いします。
- ・ご来場にあたり、アラ感染症対策WEBページをご覧ください。

アラ感染症対策WEBページ
<https://kpac.or.jp/ala/covid19/>



薄っぺらいメディアリテラシーは、もうたくさん。テレビの今を活写する。

今は昔。テレビは街頭の、お茶の間の、ダントツの人気者だった。しかし、その勢いはもうない。今はテレビを持たない若者も珍しくない。マスメディアの頂点でジャーナリズムの一翼を担ってきたテレビが、「マスゴミ」と揶揄されるようになって久しい。これは市民社会の成熟か、あるいはメディア自身の凋落か…。今、テレビで、何が起きているのか？『ホームレス理事長』『ヤクザと憲法』のクルーが、自社の報道部にカメラを入れた。本作は東海テレビ開局60周年記念番組「さよならテレビ」(77分)に

新たなシーンを加えた待望の映画化である。自らを裸にしていくなりの企画は、取材当初からハレーションを引き起こした。そして、東海地方限定で放送されるやいなや、テーマだけでなく、その挑発的な演出が異例の大反響を呼んだ。番組を録画したDVDが、まるで密造酒のように全国の映像制作者に出回った。テレビの現場は日々、何に苦悩し、何を恐れ、どんな決断を迫られているのか。果たして、今のテレビにレゾンデートルはあるのか？

アール映画交流プロジェクト「キネマ広場」は、制作者をゲストにお招きし、鑑賞者との対話を通して映画を深掘りするトークイベントです。

今回は監督の土方宏史さんと撮影の中根芳樹さんをお招きし、映画「さよならテレビ」の制作意図や裏話などをうかがえます。おふたりはそれぞれ各務原市、可児市出身なので、地元トークも飛び出すかも！

司会進行は、映画好きの市民有志が運営する「アール映画祭実行委員会」のみなさんにご協力いただきます。どんなトークが繰り広げられるかお楽しみに!!

12.18 土

上映(109分)

※トークイベントはございません。

①10:00 ~ 11:49

②13:30 ~ 15:19

12.19 日

上映(109分) +

トークイベント&質疑応答(50分)

進行:アール映画祭実行委員会

[上映] 13:30 ~ 15:19

[トーク] 15:25 ~ 16:15

ゲスト

監督:土方宏史(ひじかた・こうじ)

1976年生まれ。各務原市出身。上智大学英文学科を卒業し98年東海テレビ入社。制作部で情報番組などのディレクターを経験したのち09年に報道部に異動。14年に公共キャンペーン・スポット「震災から3年～伝えつづける～」でギャラクシー賞CM部門大賞。15年「戦争を、考えつづける。」でACC賞グランプリ(総務大臣賞)を受賞。13年、『ホームレス理事長』でドキュメンタリー映画を初監督。16年、監督第2作となる『ヤクザと憲法』が大反響を呼ぶ。



撮影:中根芳樹(なかね・よしき)

1974年生まれ。可児市出身。大同工業大学工学部を卒業し97年東海テレビ入社。ニュース、ドキュメンタリーの撮影を担当。劇場版ドキュメンタリーの撮影は『ホームレス理事長』(13)、『神宮希林』(14)、『ヤクザと憲法』(15)。14年、公共キャンペーン・スポット「震災から3年～伝えつづける～」で、第52回ギャラクシー賞CM部門大賞。15年「戦争を、考えつづける。」でACC賞グランプリ(総務大臣賞)を受賞。



私とカメラマン、担当した2人ともに岐阜県出身ということで、地元での上映会にワクワクしています。ドキュメンタリーという難しいイメージがあるかもしれませんが、色んなシーンに「日本の会社」に共通する課題が映し出されているので、身近に感じられる部分もあるかと思います。感想に正解はありませんので、自由に見てください。

※開場は上映の30分前です。 ※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※映像シアター内での飲食はご遠慮ください。 ※上映中は携帯電話等、音の鳴らない設定にお願いいたします。 ※最新の情報についてはWebサイトをご覧ください。

〈チケット取り扱い〉

可児市文化創造センター・インフォメーション

TEL **0574-60-3050** 9:00-19:00
(火曜休館/祝日の場合は閉館・翌平日休)

インターネット予約 <https://www.kpac.or.jp> アール



インターネット予約対象



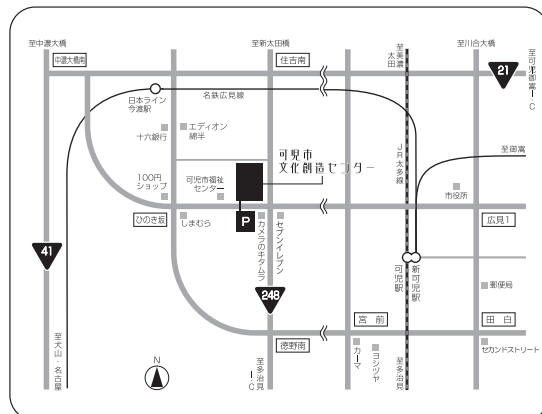
Webページ

〈お問い合わせ〉

可児市文化創造センター - ala

Tel.0574-60-3311(9:00~22:30) 〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139

[定休日]火曜休館/祝日の場合は閉館・翌平日休



アールは、全国のトップレベルの劇場として「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」の総合支援(全国16施設)に採択されています。